

アナタノオト

R-18



アナタノオト



R18

御挨拶的な何か。

はじめましての方も、お久しぶりですな方も。
こんにちは、ゆうさ理姫です。
2008年度最後の本と相成りました。
私のこれまでの本を読んで下さった方は何となく分かると思いますが、
今回も、所謂「漫画の王道ネタ」を踏襲してます。意図的ですよ、勿論。
ネタがなかったから…じゃないですよー(笑)

「言ってる事が良く分からない」と言う方の為に。
これまでの既刊から。

2007年度
「黙ってあたしについて来い！」→幽霊ネタ
「ロアナプラ狂詩曲」→看病ネタ
「My Lover Little Girl」→幼児化ネタ
2008年度
「純愛Tenderness」→媚薬ネタ

…まー、アレです。
漫画のお約束ネタですよこの辺全部。

と、ここまで描いて来て。
さて、じゃあ冬コミはどのネタで行こうかしら…と考えまして。
まだやってない王道ネタって何がある…？

…あるじゃないですか。
少女漫画の超王道ネタ。
「記憶喪失」が。
少女漫画どころか、ありとあらゆる漫画、小説、ゲーム、ドラマ、映画の王道ネタですよ。
これをやらずして、他に何をやれと言うのか！

…てなわけで、今回は「記憶喪失」ネタです。
誰が記憶喪失になるのかは、読めばすぐ分かるので割愛。
読んでのお楽しみ、という事で。
若干シリアス展開ですが、ラストはいつもの通りとなっております。
相変わらず、ロクレヴィイチャイチャ展開です。
…読み手の方に、引かれなければ良いんですが。

それから。
今回も、夏に出した本同様、ゲスト様をお招きしております。
ゲスト原稿を引き受けて下さったお二人には、感謝感激雨霰です。
こちらの方も、お楽しみ頂けたら…と思います。

←それでは、本編スタート。

あ、それから、今回もR18ですので、年齢制限に引っかかる方でここを読んでいる方は、
速やかに引き返す様に！
以上！

では、後書きでお待ちしてます。



気づいた時には

頭の中が真っ白だった



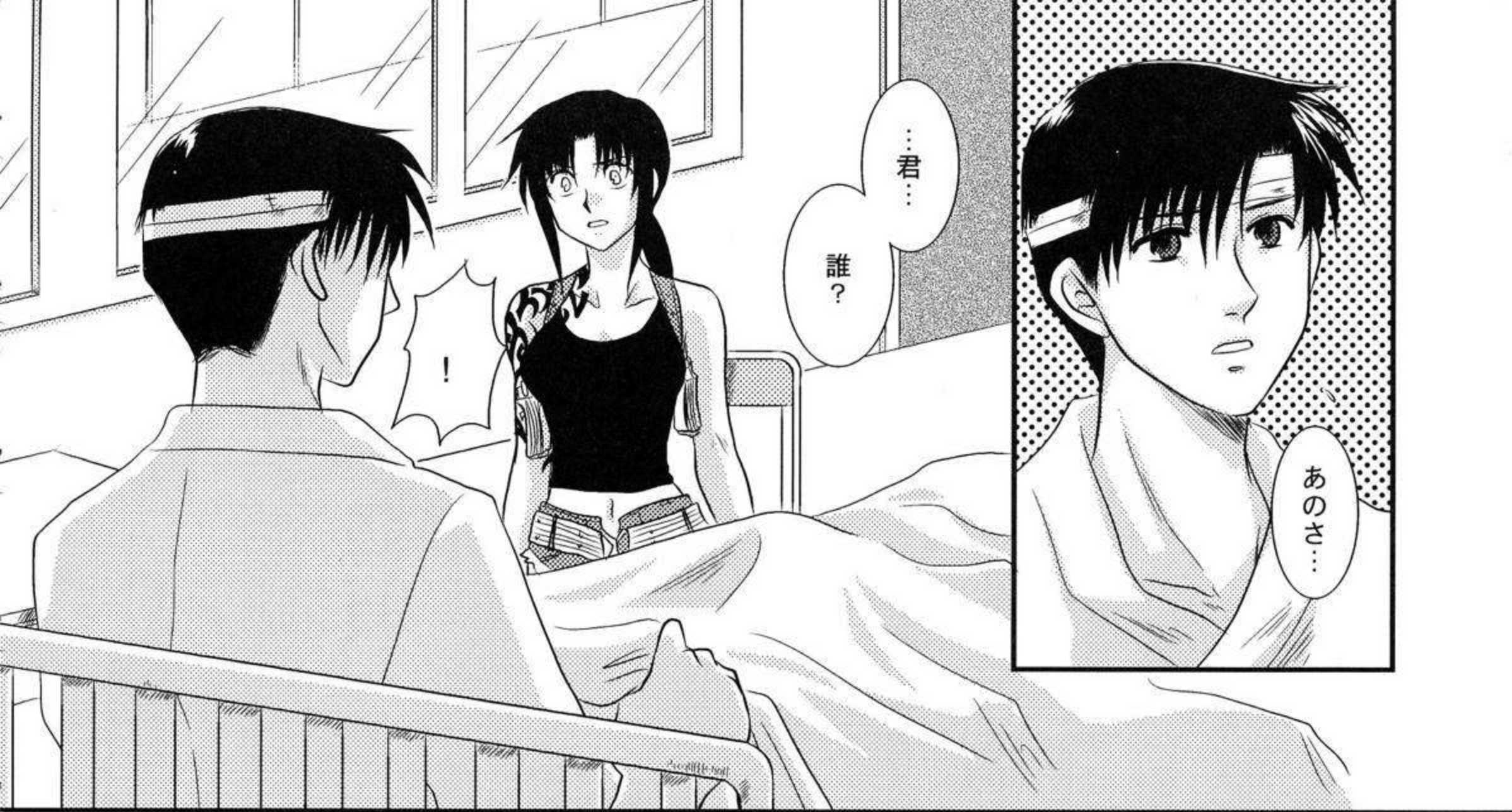
…みたいだよ

5



記憶喪失…
だと？

…レヴィの奴は
どうしてる？







何だって
あたしが…

こいつを…

ちりり



何か
思い出せるかも
しれねえからな



あたしのって…

はあ？

何を
言ってるんだ？



お前が適役だ

…それに…



元々
お前のせい
だからな

責任取れ

ニヤ

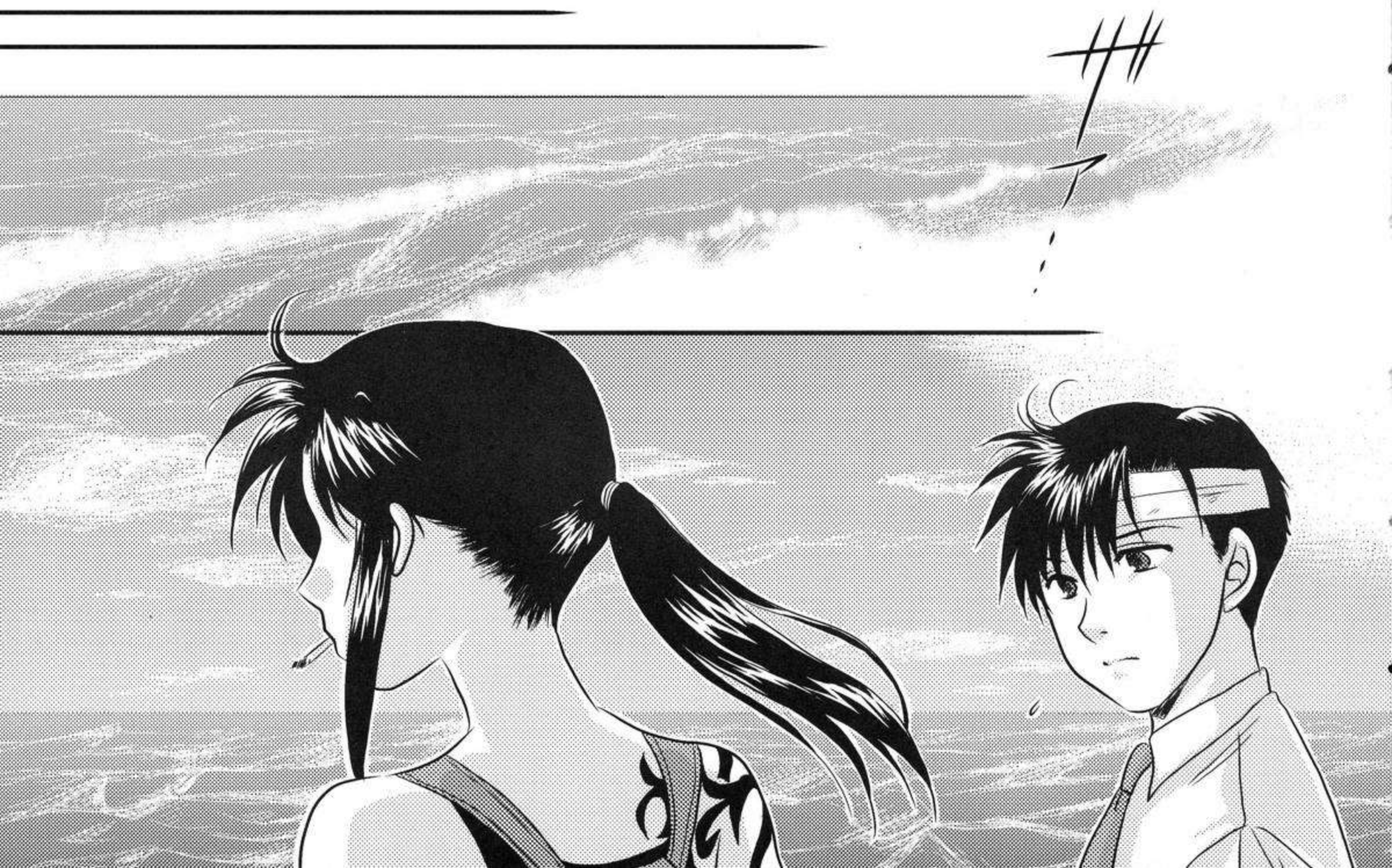


あの…

嫌なら
俺は別に…

キハフ

…!





…何がだよ？



…じめん



色々迷惑
かけて



全くだぜ



帰るって…
どうして？



今日は
ここまでだ
…帰るぞ



お前…

やっぱり元いた場所に
帰るべきなのかも
しれないな…

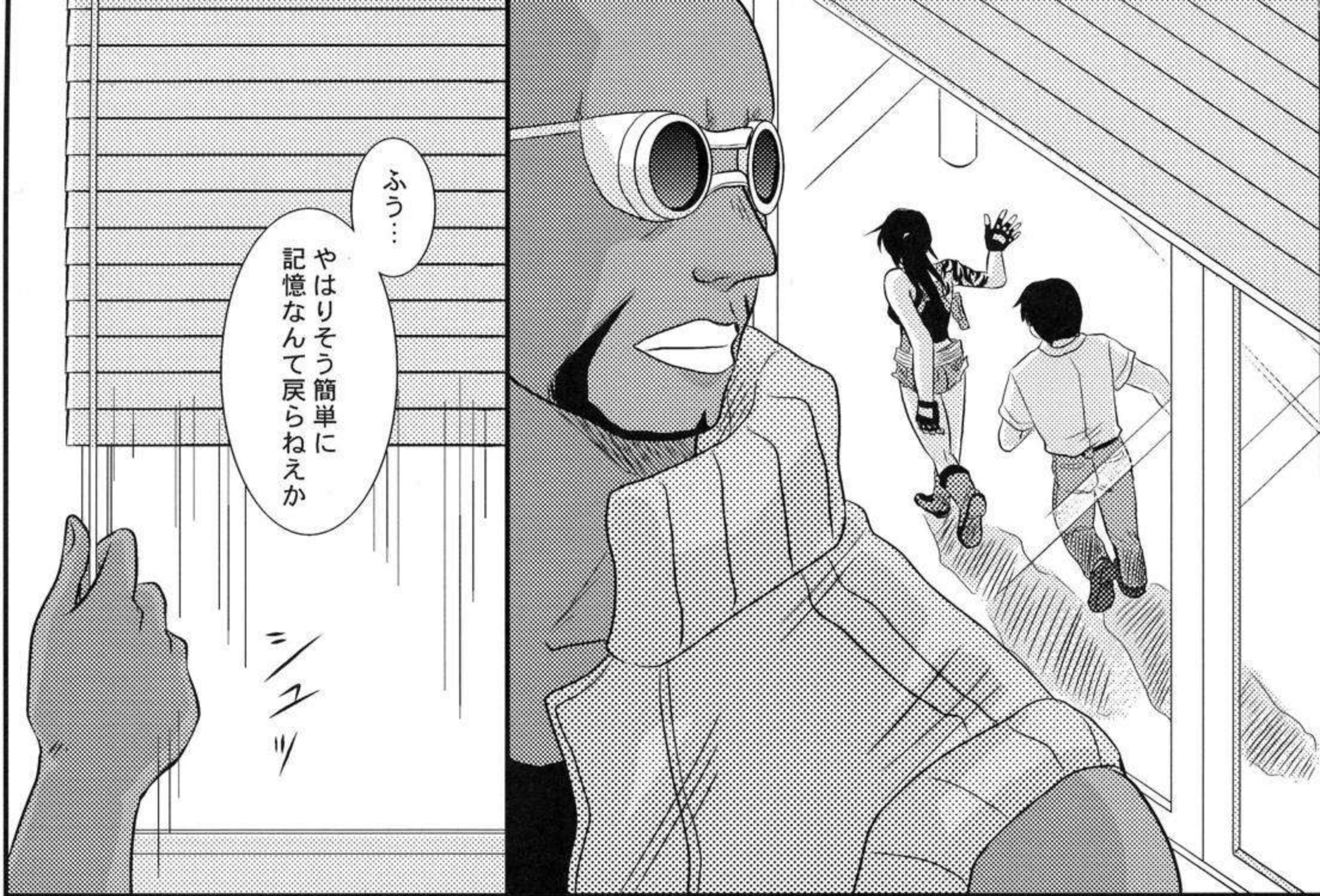


元いた
場所って…

何も覚えて
ないのに



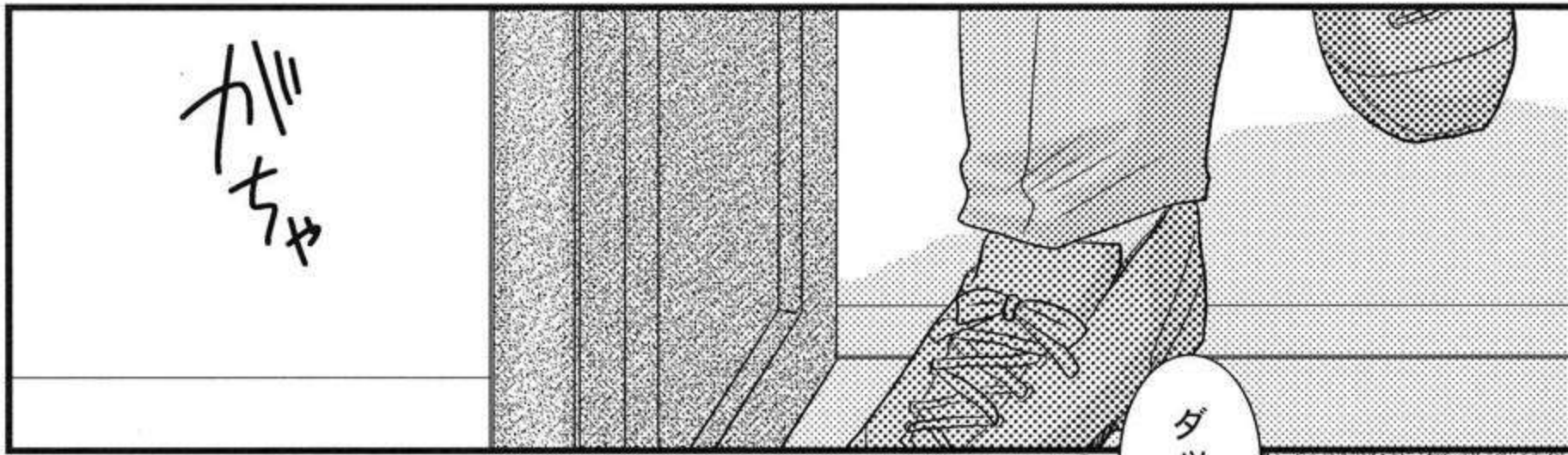
どこへ行けって
言うんだよ…



ふう…

やはりそう簡単に
記憶なんて戻らねえか

シユツ



カチャ

ダツチ

ちよつと嫌な噂
聞いたんだけど…

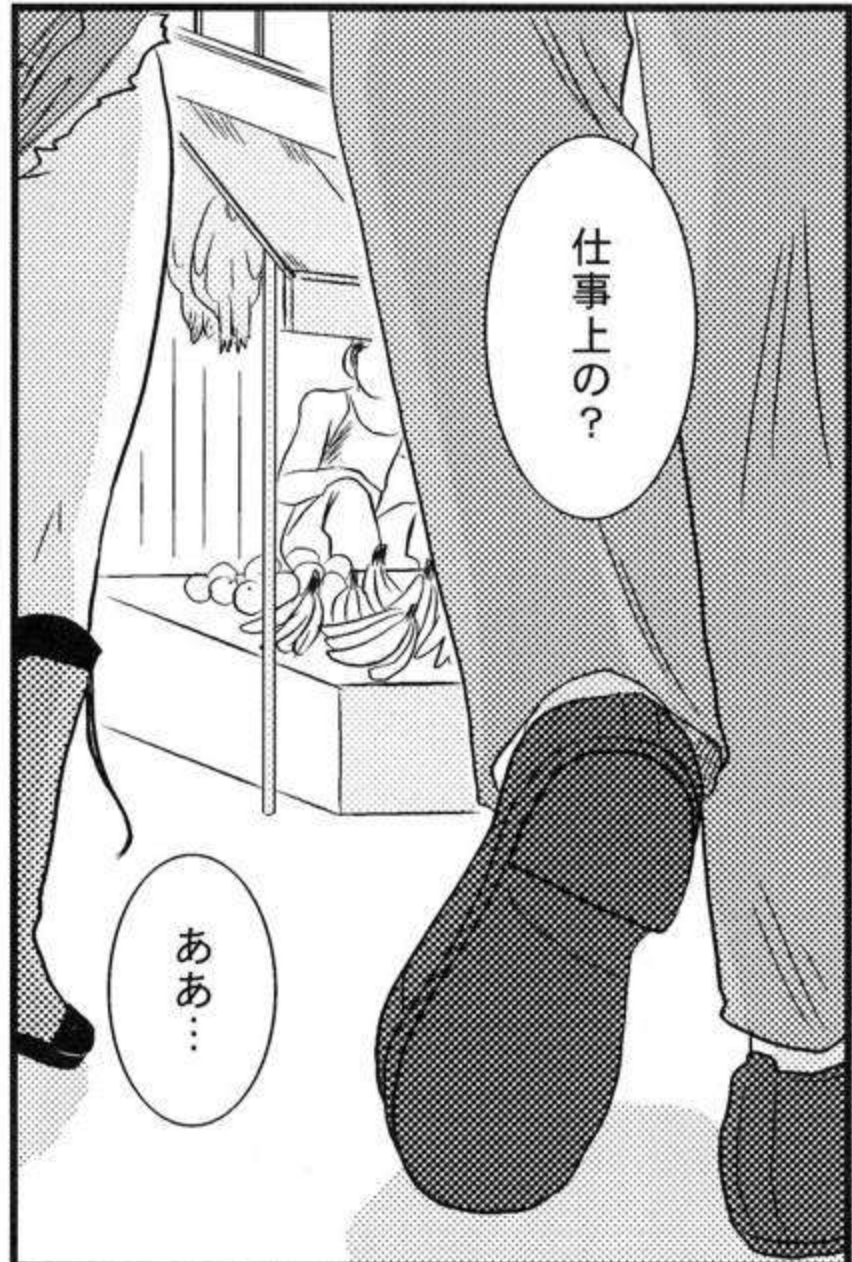
ぽたん



噂？



そうか…



仕事上の？

ああ…



お前…
やっぱ、帰れ



帰れって…
どこへ



日本へ
お前の国だ

今からでも
遅くはねえ



それは…

俺が、
邪魔だ、
って…ことか？



お前は覚えて
ないかも
しれねえけど

あたしはあんたに
言ったはずだ

帰れって



キー

なん…だよ…
それ



…思ってくれて

いっ

…そう…



…

行けよ

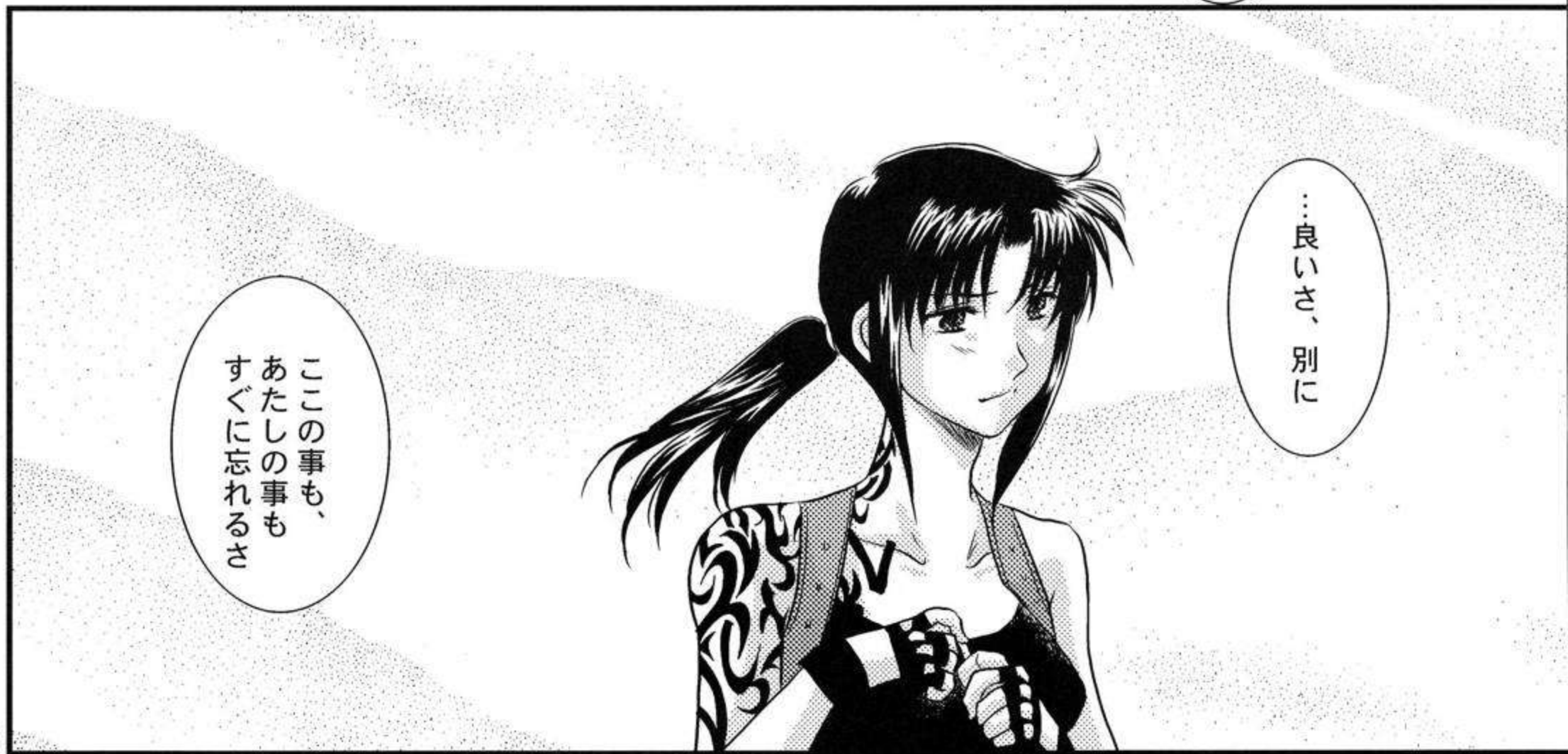
ここはお前には
相応しくない
場所だ



最後まで、君の事
思い出せなくて

...うめん

日本大使館
にでも行け
後は向こうが
何とかしてくれる



ここの事も、
あたしの事も
すぐに忘れるさ

...良いさ、別に



忘れないよ...

え?



君の事が好きだったんだと思う

…多分…記憶があった頃の「俺」は

今は何も思い出せないけど…



それだけは伝えたかったんだ



…それじゃ
…元気で

何だよ…



最後に
そんな事
言うなんて

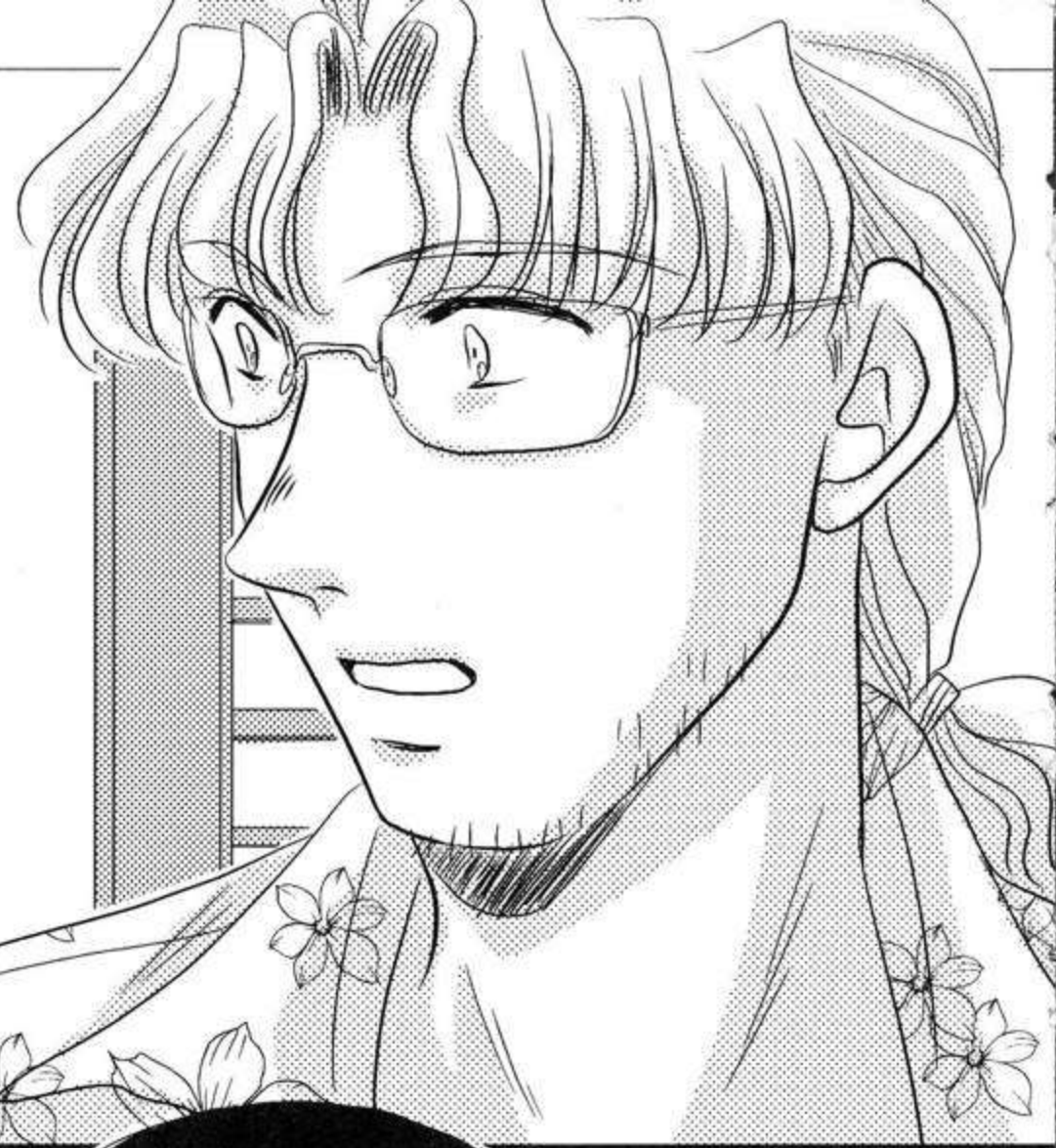
卑怯じゃねえか...



まあ
レヴィと一緒になら
問題ないだろう



す



それはそうかも
しれないけど

…あ



おたん

あれ?
ロックは?



帰る様に言った
日本に

その方が
あいつの為…

かば?

ロックを
一人にしたのか?



?
何を慌てて…



ロックが
危ないかも
しれない！



え……？

嫌な噂を
耳にしたんだ

ロックが命を
狙われてるって



命？

何であいつが
命を狙われるんだ？
理由がねえ



理由は…
レヴィだ

レヴィ？



21

はあ

レヴィに勝てないなら、
レヴィの一番大事な物を
壊してやるって



以前、レヴィに負けて
痛い目にあつた奴が、
逆恨みしてるらしい

そいつが





他に、
ないだろ？



それが、
ロックだと？



ロック！





俺は…また、
「彼女」の足手まといに
なるのか…？



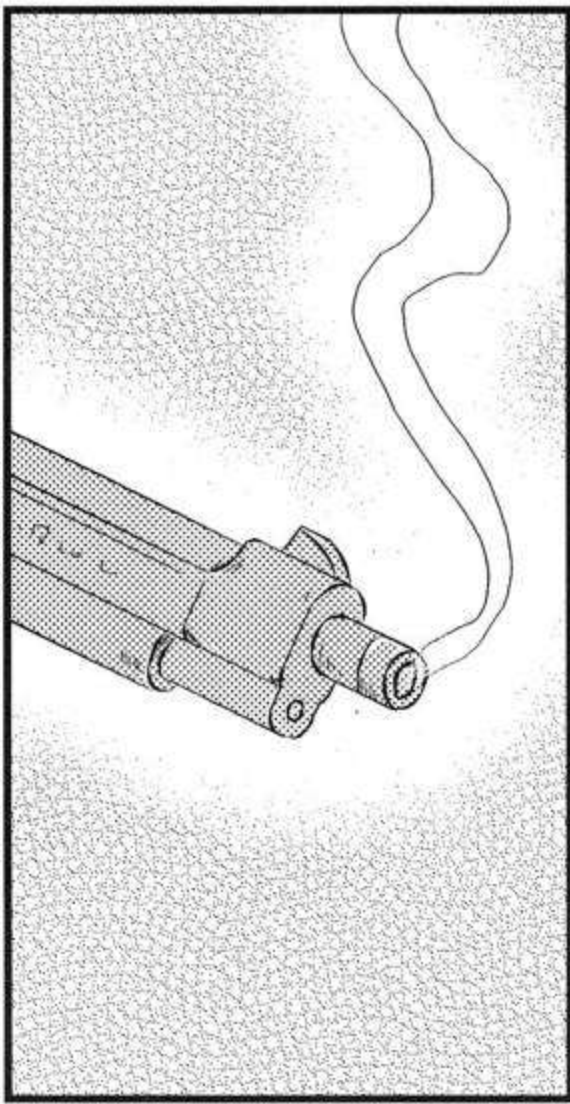
カ
キ
ッ



俺が
死んだら…

彼女は泣いて
くれるだろうか…？







ロツク?

レヴィ

お前らしく…
ない…

記憶が…?

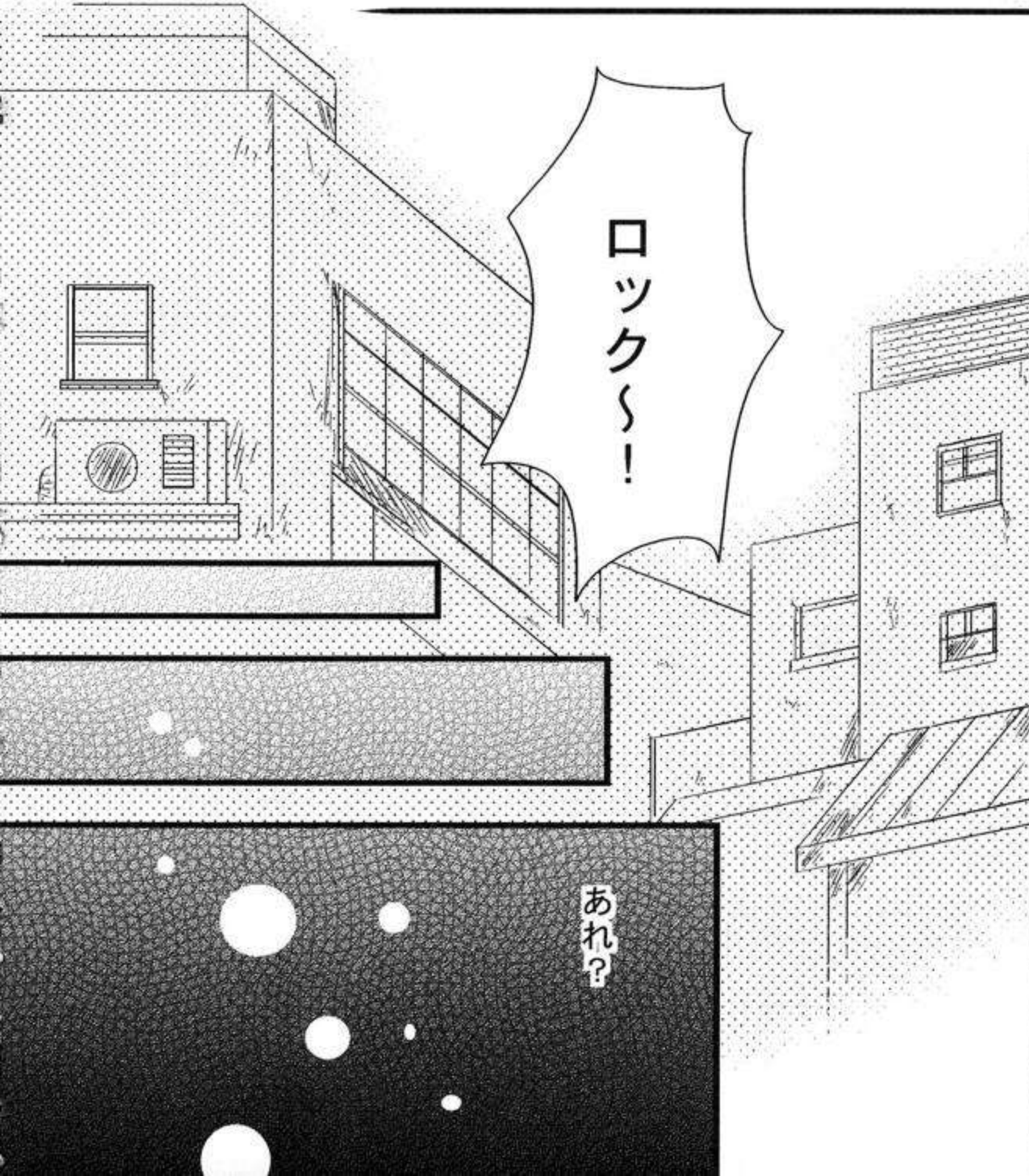


なに…

泣きそうな顔
…してるんだ…



…



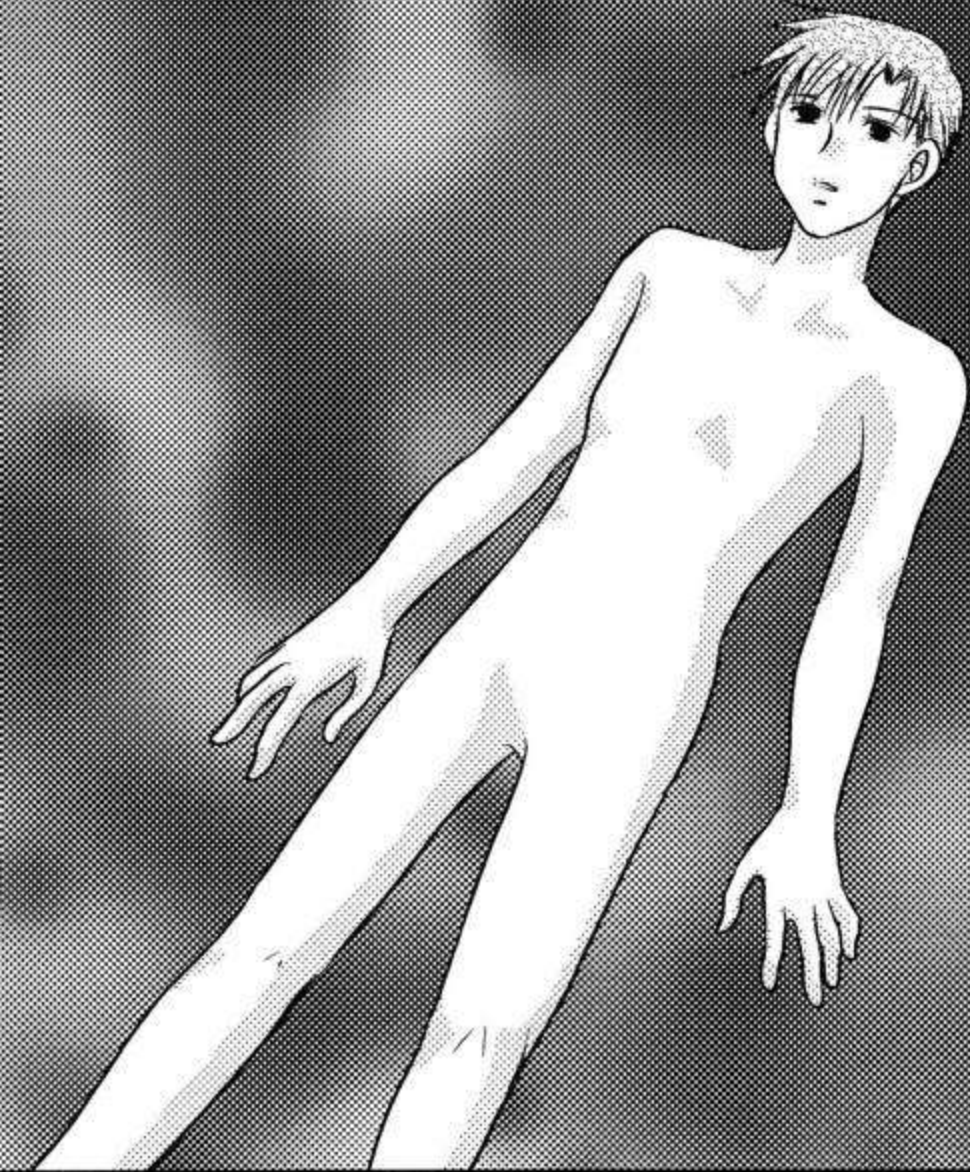
ロツク〜!

あれ?



ロツク!

しっかりしろ、
ロツク!



真ッ暗だッ

怖ッくらい、静かだッ

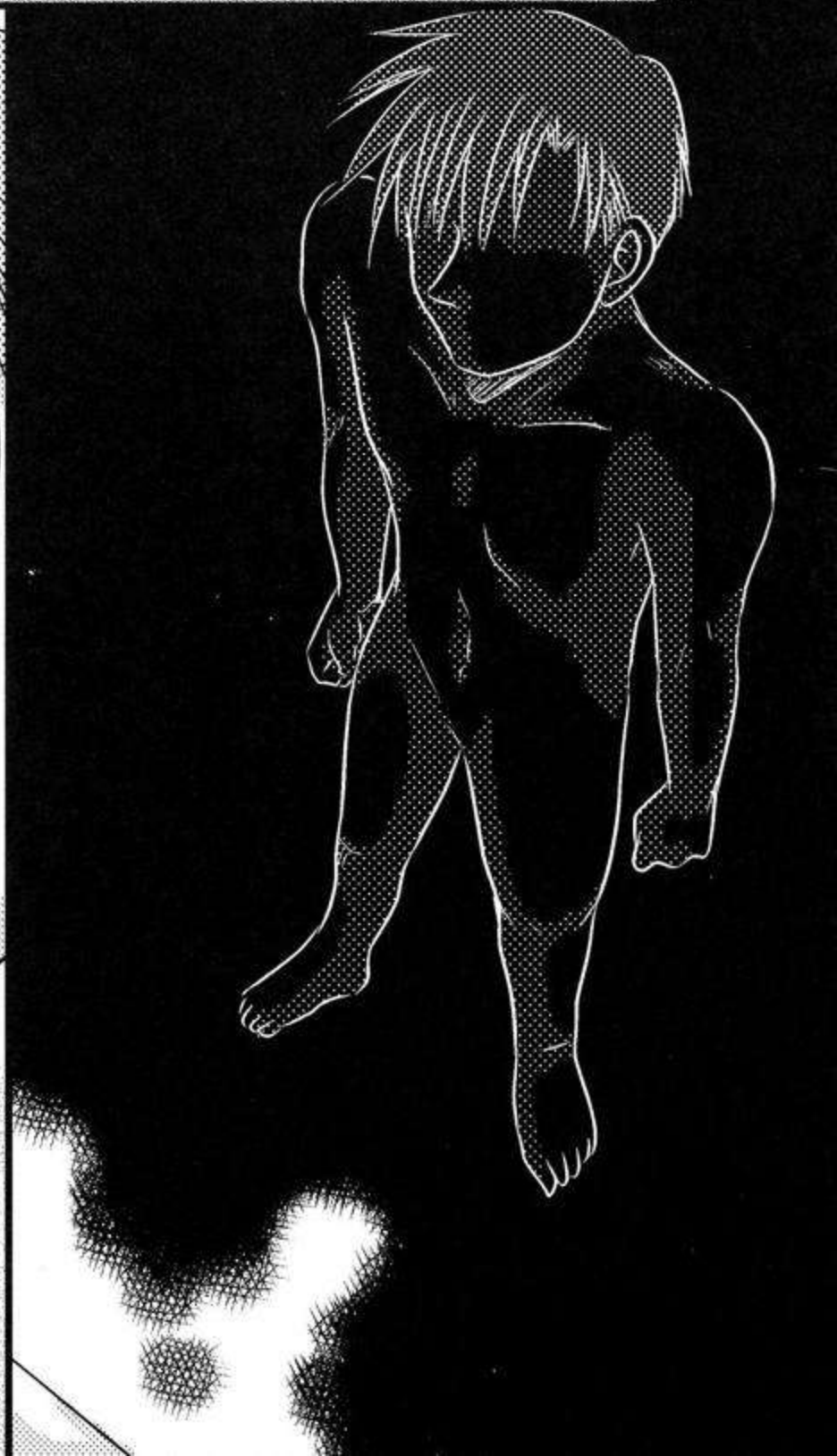


俺…
何してたんだろ…



俺、
死んだのか…

…そうか





彼女の、所に
俺の、居場所に…

そうだ、
俺…帰んなきゃ…





……レヴィ



ロック……？



お前、
3日も目を
覚まさないから……
あたし……！

ロック！
心配かけ
やがって！



は？



3日も？

俺、そんなに
重傷だったのか……
頭を殴られた
だけなのに





記憶喪失?
何の事だ?

…ええええええ!



あ
!

あたしの事、
好きだって
言ったことも?

お前…
覚えてねえのか?



てめえ…

俺、そんな事
言ったのか?

ふる
ふる
ふる



なかった事に
しようだなんて
思ってたんじゃない
だろうか？

うわっ
痛いよレヴィー！

痛っ
痛たたたっ！



お前ら、
痴話喧嘩も
程々にしとけよ

もしかして僕達、
邪魔かな？



っ！
うるせえん
だよ！

多分…後書き。

ここまで読んで、「まだ18禁シーンねえじゃん!」とお思いの方。
該当シーンは、この後続く、ゲスト様寄稿作品の後となります。
切りが良かったので、ここで一旦区切ったって訳です。
R18シーンの原稿、トーン貼りがすっごく楽でした。
…だって、裸ばかりだから、トーンの種類が少ないくて済んだんですもの。

今回の本のタイトル「アナタノオト」ですが。
分かる方は分かりますが、某アニメの中で使われてる曲のタイトルです。
当初は、別のタイトルを用意してたのですが、急遽変更。
…もっとも。
この後の、R18シーンの「どくんどくん」しか合っていない気もしますが(笑)

いや、ね。
ロックが死にかけるから、「アナタノオト」→「心臓の鼓動」ってな感じに引っ掛けてもいるんですが。
イマイチ分かり難い気がするので、解説してみました。
当初のタイトルは、「call my name」にしようかと思ったりしました。
「記憶を取り戻す」→「名前を呼ぶ」てな感じで。
…当初のタイトルのが良かったですかね…?今更ですけど。既にもう遅いし。

内容的にはシリアスっぽいですが、ラストはいつも通り明るく終わらせたいな、と思ってたので。
明るく…というより、ちょっと笑いの方向に持って行きたかったっつーか。
シリアスな空気にこれ以上耐えられなかったっつーか。
まあ、そういう事です。

次は、またもうちょっとラブコメな感じの物にしたいな…なんて…ね…。
次の王道ネタを何か思いついたら良いんですが。
他に何か王道ネタって何かありましたっけ?

それでは、まだ終わってないけど、ここまでお読み下さり、ありがとうございました。
機会がありましたら、またお会いしましょう。

そんなわけで。
続きをお楽しみ下さい。

2008年12月某日 ゆうさ理姫

ここから先の数ページは、ゲスト様作品となります。
ゲストを引き受けて下さっためぐみ透子様、夜ノ森まゆ様、
本当にありがとうございました。

それでは、どうぞ。





軽いカオ

アタマが

オロオロ

大変突然ですが、
レヴィが記憶を喪失しました(泣) 夜ノ森まゆ



ふーん

せっかくだし
ウチで面倒
見てもいいわよ

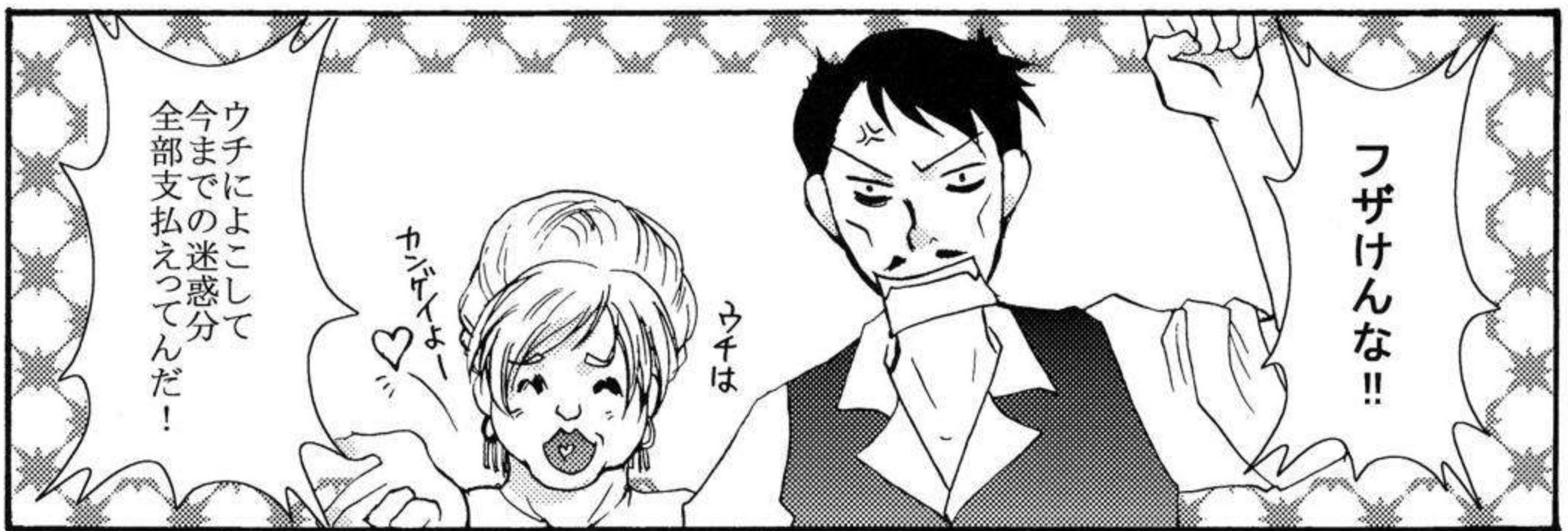
イナから
きたえ直し
ですか



なんなら
ウチでもいいぞ

もう一度
立派な
二挺使に
してやる

大兄!
反対です!!
(元典義)





↑産,てい



踊るSweet'n Bitter

By Tohko Megumi@CLOVER!!!

「新製品です、使ってみてくださいーい♪」
「ど、どうも…」

日本じゃ最近耳栓の試供品なんかも配ったりしてるのか、新年早々苦
勞なことだ——ほぼ一年振りに返ってきた故郷・日本で、ロックは弾け
る笑顔のキャンペーンガールズからそれを受け取り、面食らった中途半端
な愛想笑いを彼女らに返した。ごった返すこの新年の人混みでわざわざ配
らなくても思ってしまうけれど、これはこれで見知った懐かしいと言え
る日本の光景だった。

その懐かしい日本の空気を吸い込み発せられるのは、母国語ではなく英
語。初来日の米系華人であるレヴィとの会話だ。

「…なにニタついてんだよ、ロック？」

「いや別にやけてなんか…。ただ、寒くないかなって。レヴィみたいに
ストッキングはいてないみたいだったし…」

「よオオつく見てんじやねーかよこのムツツリめ」

今すぐには出番の無さそうな耳栓をコートのポケットに突っ込んだとこ
ろで、今度は道の先でポケットティッシュを配っているのに出くわした。
道端で配られているモノの代表と言えれば確実にコレだが、今日はすでも
う三度目だ。欲しいなと思っていると出逢わないのに特に欲しくもないと
きに限って笑顔で現れたりする、彼らはまるでテトリスの棒型ブロックみ
たいな存在だ。

半ばうんざり顔のロックに対し、隣でレヴィはにやりと笑う。

「よろしくおねがいしまーす、どうぞー♪」

「お、また来た。貰ったこ」

「ちよ、ちよっとちよっとレヴィ：貰いすぎだろそれは」

「えー、だってタダだろー？ほらお前も貰ったけ、なー。日本っていい国
だなー。歩いてるだけでモノが貰える国なんて他にねえだろー？」

「広告がついてるんだよ、街角金融とか、英会話とかの。企業努力ってヤ
ツ？」

「へー、そんなの見るヤツいんのかよ？…これは？」

「…風俗」

「ん、やる。可哀相だから。日本の女は久しぶりだろー？」

「コラいらないってば！何の嫌がらせだよレヴィっ！もう俺のポケットも
入りきらないよ！」

ポケットティッシュのみならず、シャンプー&リンスの試供品セットも
配ってた、カラオケ屋の広告つきの脂とり紙も貰った、バンドエイドに生
理用ナプキン、ファーストフードにラブホテルのサービス券。それらにい
ちいち感動し、無邪気に喜んでそれらをぶんどって来るレヴィのおかげで、
二人とももう上着のポケットは満員御礼であった。

それなのに彼女はまた貰う、おそらく鞆を持っていた日にはポケットの
みならず鞆の中も押すな押すなの大盛況だったに違いない。

「おー、果物かよ！」

正月だからか気前のいい電器屋が通行人にみかんを配っている、遠慮な
く貰う。

「スゲー、大盤振る舞いだなー！」

雑貨屋の前、どう見ても子供向けに配っている店のロゴ入り風船も上機
嫌で貰いに行く、しかも二つも。

レヴィはそれこそ子供のようにはしゃいでやりたい放題、いや貰いたい
放題である。

「ロック、貰ったみかん食おうぜ！」

「えーと、レヴィ、今？」

「剥け！んであたしに食わせろ！風船で手が離せねえからな！手間賃に半
分やるぞ？」

「二つ貰って来るなら風船じゃなくてみかんが良かったな…」

「最後の一個だったんだぜ？ラッキーだと思えよなー」

仕事で来ているはずが、今のこの調子では観光ガイドどころか修学旅行
の引率——生徒一人に教師一人——ロックは何となくそう思った。

ぶつぶつと文句を言いつつ呆れつつだが、それでもあまり見られることのないレヴィの無邪気な様子に、ロックだって頬が緩まないことはない。その緩む頬にクールアズキークとせいぜい言い聞かせ、受け取ったひとつだけのみかんを手の平でしばし弄ぶ。意味のある行為だ。

「ロック、早くしろよ！」

「一度教えたら？こうやると皮と中身が離れて剥きやすくなるんだよ、せつかちなあレヴィは」

「チツ、めんどくせえなア日本人ってのは」

ゴミを道路にポイと捨てるわけにもいかない、ロックは仕方なく、上着の襟元を広げスーツの胸ポケット（もうそこしか空気がないくらいレヴィの戦利品がありとあらゆるポケットに詰め込まれていた）に剥いたみかんの皮を納めておくことにした。出来れば貰ったティッシュで包んでからにしたいところだったが、とりあえずそれは後回しにする。

きれいに剥いたみかんの丸いひと固まりから、レヴィのために一房ずつ差し出そうとまずは半分ずつに分けたところで、突如行儀の悪いレヴィの片手がそれを強引にさらった。

「：食べさせろって言ったのはレヴィだよ？」

「んにゃ、いーわやっぱ。自分で食うよ」

「：恥ずかしくなった？」

「べ、別に」

「ふうん。：俺も風船欲しいなあ」

「ヤダ、ダメ。両方あたしんだ」

もぐもぐと半球状のみかんにかぶりつくレヴィ。

案の定、握った風船を意地でも離そうとしないレヴィ。

道すがら、ありとあらゆる無料配布にはしやぎまくったレヴィ。

俺の目にどんな風に映ってるか、今ここで声を出して教えてやろうか——もしも衝動にかられてそんなことをしようものなら、物騒な鉛玉よろしく口汚くもチャージミグな罵声が容赦なく飛んでくる——ロックは自分の分のみかんを有り難く食べ終えると、ポケットからこっそりと耳栓を取り出した。さっきもらった試供品のアレである。

レヴィの死角になるような位置でパッケージを開封し、中身を取り出した。そしてやはりレヴィにさとられないように自然な仕草を装って、自分の両耳に装着する。よしよしバレてない。

「お、また何か配ってやがるぜ！ホント平和な国だよな——日本ってなア」

「：いつてらっしゃい」

幸いにも、また道の先に何かの無料配布が現れた。おそらく今回もティッシュだろうが、実にいいタイミングで現れてくれたものだ。

レヴィの気がそちらに向き、二つの風船を持ったまま隣からいなくなる。そして彼女が嬉しそうに戻ってくるのを、立ち止まってしばし待つ。

「：おかえり」

「大量大量つと。ロック、あたしのフードにこれ入れて：」

耳栓のおかげで正確に聞こえないものの、レヴィの表情や仕草で大体の意味はわかる。そこまでして貰うのかと突っ込みたい気持ちも山々なのだが、それよりもロックは是が非でもやらねばならないことを思いついていた。

レヴィのお願いをにっこりと無視して、胸ポケットに入れておいたそれを一片、つまんで取り出す。みかんの皮と言えは：ほらアレだ。ティッシュの小山をこちらに渡そうとしている彼女の鼻先に、ひよいっとそれを近づける。

「うわ馬鹿ロック何す：って：あ、アレ？」

みかんの皮を押し潰してレヴィに飛沫をかける、そんな他愛のない嫌がらせもお約束でいいだろう。しかし実はそれは紛れもなく振りだけであり、レヴィの目を盗んで装着した耳栓に意味を持たせるものではなかった。それに自惚れさせて頂くなら、耳栓ナシでも彼女の罵詈雑言を甘んじて受け止めるくらいの甲斐性はある。

実際のところロックがみかんの皮の汁を飛ばしたのは、レヴィの頭上でふわふわ揺れている二つの風船に向けてなのだった。甘い香りの飛沫が風船の表面に飛び散ったなら、あとは一呼吸待つだけ。さあ楽しい理科の時間だ、可愛い俺の生徒のための野外授業だ。

「：え？何で？」



レヴィの唇がそう動き、ポケットティッシュの小山を抱えたままぼかんとした顔でこちらを見つめる。そんな感じですっかり気の抜けたレヴィの頭上で二つの銃声が——いや、風船の割れるパアンという大きな音が二つ時間差で響き、風船の浮力から解放された細い糸が二本、もつれ合うように睦月の風に揺れ落ちた。レヴィの腕からは、貫つたばかりのポケットティッシュがふたつみつとアスファルトの地面に落ちた。

耳栓越しでも多少は自分の鼓膜に届いた銃声の如きそれと、びくんびくんとレヴィの肩が二度反応したのを確認し、ロックは今度こそ緩む頬を我慢出来なかった。

「な…、ロックおま、何だ…？今何しやがった…？」

「あはは、レヴィ、びっくりした？」

二つの破裂音とレヴィの大声とに、近くにいた何人も当然、多少びっくりしたように振り返る。すみませんお騒がせしておりますと、ロックは心で一瞬だけ通行人の皆様に詫びた。

「リモネンって言ったかな、柑橘類の皮の成分には」

そう言いつつ件の耳栓を一つずつ外して、びっくりした顔のままのレヴィにまざまざと見せつける。レヴィはまだまだぼかんとした表情だ。

「発泡スチロールとか風船とかを溶かす働きがあつて」

つまらない蘊蓄をあえて言うのは、レヴィの反応が見たいからだ。まったく自分でもいい趣味をしているとロックは思う。

「こんな感じで風船が破裂するんだよ、レヴィ？」

「——ッ、この馬鹿ロック！テメエ！何のつもりだ！カトラスが来たらコレを的にして遊ぼうと思つたのに！」

「ははっ、じゃあレヴィ、俺が代わりに的になるから」

「それじゃ意味ねえんだよ本気で馬鹿だろこのノータリン！死ぬ！」

「だから俺を的にすれば死…！」

「勝手に死ぬ馬鹿！ひとりだけ耳栓しやがって！何だよその顔！」

ああやっぱ、レヴィの罵詈雑言は耳栓でシャットアウトするには勿体ない、一言たりとて聞き逃せるものか。日本の空気を力一杯吸い込んだレヴィが、あの路南浦と変わらない勢いで今も自分の目の前にいる。

「可愛いなあ、レヴィは」

「何がだよチクシヨ！このチンカス野郎！」

ベタな恋愛ドラマみたいに抱きしめて黙らせるより、目の前の火の玉みたいな女の子をもうちよつとこのまま愛でていたい。ロックは懲りずに胸ポケットに再び手を入れ、まだまだ残っている皮の一片を今度こそ、飽きもせず喚きまくるレヴィの鼻先で弾けさせた——やめておけば良かった。

「だあ…うわッ！てめ、このッ！いい加減に…！」

「あ、ごめんレヴィ。今思い出した。これで早く顔拭いて。ホントごめんっ！いや袖でなくて！」

「何だよ急に！にわかには紳士ぶってんじゃねえよ！謝るくらいなら最初から顔射なんかすんなボケが！」

「が…違うっ、リモネンには光毒性があつて、紫外線と反応してシミになるとか…」

「うわ最悪だテメエ！調子こいてッからだこの馬鹿…って、ん…ッ？」

ロックはレヴィの彼女の鼻の頭に、まだ取り残されたままのそれがあるのに気付いた。指できゅつとつまむようにぬぐい取り、まるで日常的に行っているかのような自然な仕草で自分の口元に運び舐め取ったはいが。

「…苦い」

「…やっぱお前風俗行つて抜いて来い」

「…嫌だ」

「…風船が溶けるんならゴムも溶けるんじゃね？実験して来いよ」

「…昨日俺が買ったやつがあります。『失敗は許されない』ってゴルゴ某がパッケージで睨みを利かせてるヤツが」

「…バオにやる土産じゃなかったか、それ？」

呆れたような照れたような顔の眉間に、しわを寄せるレヴィ。

これが修学旅行だと言うのなら自分はとんだ淫行教師だと、ロックは爽やかな新春の空に思った。

(終)

めぐみ透子様



キタ————!!!!

※本編に続き織田裕二ネタ、猫パンチ×2でなく※

お誘いありがとうございます、そして案の定すみません。
 外国人観光客が日本は歩いてるだけでモノが貰える♪と
 テレビで感激していたのが記憶にあり、あのようなネタになりました。
 タイあたりにも、みかんの近種はあるみたいですね。

<http://blackclover.sblo.jp>

夜ノ森まゆ様

お誘いありがとうございました！

ロクレヴィ本発行おめでとうございます。
 ゆうさんの素敵なロクレヴィの世界を
 目指して玉と砕けました。
 おまけに背景皆無ですみませ
 糖質ゼロっぽい感じで申し訳なさすぎるので
 コメントん所だけでも糖度上げしてみました。

締め切りギリギリで迷惑
 おかけしました。
 またご縁がありましたらもうちょっと
 マジなロクレヴィにリベンジしたいです。
 ありがとうございました！

夜ノ森まゆ個人同人サイト「ウタ雨」では
 現在絵日記+時々テキストや同人活動——な感じで
 マイペースローペースで運営中です。
 よろしければURL、または「ウタ雨」でご検索下さい。

<http://www13.plala.or.jp/blackcats/>



ここから先は、十八歳未満の方は踏み込んで行けない世界です。
年齢制限に引っかかる方は、速やかにUターンして下さい。

とんじゃあどーとん
なんたせー
トヤほんま
とんぼんま
ないどまか。





だからって…



仕方
ねえだろ…

あたしのせい
なんだから…



そんなに気を
使わなくても
いいから…

レヴィ



こっちの
お世話まで
する必要ないだろ！



そういうんじゃ
なくて…



不服？



でも…

あたしの事

好きなんだろう？

なら、
何の問題もない



そんなの…

レヴィの
気持ち

聞いてないよ、
俺は



う…

言わなくても
察しろ…



怪我

まだ治り切って
ねえんだから

全部あたしに任せな



ん...



大分固く
なって来てるじゃ
ねえか



はあ...

うっ
...ああ...



フ
フ

気持ち、
良い？



ふ...
はあ...

くちや

ちやば

レ...
レヴィ...



レヴィにも...
気持ち良く
なってもらいたい...



こっち、来て

レヴィ...





ちやっ

す。ぶ

…深いところまで
…当たってる…

凄い…

…ロック…

…駄目…

はあ



ほん

もっと…
激しく…

ほん



ああ…

はあ…

はあ



レヴィ

レヴィ……!



あんっ

……はあ……ん……



あつついのが……

中で
どくんどくんしてる……





そんなに
正常位に
こだわんなよ



はあ…

はじめてレヴィを
抱く時は、
正常位のが
良かったんだけど…



気が向いたら

正常位で
やらせてやるよ

レヴィ…



ただし

お前の怪我が
完治するまでは

セックスん時は
あたしが主導権
握るからな

覚悟しとけよ

ははは…

そっちこそ、
覚悟しとけよ

ベッドの中で
啼かせてやる
からな

■奥付■

■発行日■

2008.12.29

■発行■

以心伝心/ゆうさ理姫

■表紙印刷■

関西美術印刷株式会社

■本文印刷■

プリントワーク

■E-mail■

rikiriki09@yahoo.co.jp


■個人サイト■

<http://rikiriki.cool.ne.jp>

アナタノオト

R-18

BLACK LAGOON
Fan Book No.15

The background is a solid light pink color. It is decorated with several large, white, scalloped-edged lace patterns. One large lace pattern is in the top right corner, another is on the left side, and a third is at the bottom center. The lace has a floral and geometric design.

BLACK LAGOON
Fan Book No.13